

会 議 録

会議名称	令和5年度 第2回座間市子ども・子育て会議		
日時	令和5年12月21日（木） 10時～11時30分		
場所	ハーモニーホール座間 大会議室		
出席委員	稲垣委員、飯田委員、◎大下委員、小宮委員、小澤委員、小多喜委員、内藤委員、○菊池委員、麻生委員、畑中委員、湯川委員		
事務局	こども未来部 白井部長 こども未来部こども家庭課 曾我課長、片岡主任、植野主事 こども未来部保育・幼稚園課 冠課長、木村保育園担当課長、佐山副主幹兼係長、高野係長		
会議の公開可否	■公開 □一部公開 □非公開	傍聴者数	1人
次第	1 開会 2 報告 座間市子ども・子育て会議規則の改正について 3 議題 特定教育・保育施設の利用定員について 4 閉会		
配布資料	資料1 教育・保育事業の利用実績報告書 資料2 私立幼稚園、特定教育・保育利用施設からの届出について 資料3 令和6年度特定教育・保育施設等の利用定員 資料4 座間市子ども・子育て会議規則 資料4－2 座間市子ども・子育て会議規則新旧対照表		

1「開会」

こども未来部長挨拶。

子ども子育て会議委員14名中11名が出席し、座間市子ども・子育て会議規則第5条第2項により会議が成立。

資料を確認後、座間市子ども・子育て会議規則第5条第1項により大下会長が議事を進行。

2「報告」

座間市子ども・子育て会議規則の改正について

○事務局（こども家庭課）

資料4及び資料4－2に基づき説明。

これまでの実態に即した内容に変更した旨及び数値の算出方法を変更するものではないことを補足説明。

○会長

このことについて質問はあるか。

○委員

特になし。

3 「議題」

特定教育・保育施設の利用定員について

○事務局（保育・幼稚園課）

資料1、資料2及び資料3に基づき説明。

昨年度までは保育全体の供給量から不足を補うよう定員数を調整していたが、今年度は年齢にもフォーカスして1，2歳を手厚く予算措置したことを補足。

○会長

このことについて質問はあるか。

○委員

待機児童の定義は何か

○事務局

保育施設への入所条件を満たし入所申請をしているにもかかわらず、利用ができていない未就学児のことを言うが、「入所申請をしているにもかかわらず」とは、各自治体で定めた入所申込書の希望する保育園全てに入所できない必要があり、座間市は第4希望まで保育園の希望を出せるが、もっと多く記入欄がある自治体も多く、とても通えない保育園まで記入しなくては、待機児童としてカウントされず、座間市は比較の実態に即した待機児童数になっている。また、育児休業の手当を申請する関係で実際には保育園に入園を希望しないが、手続き上入園申込みをする人も多いのが現状である。

○会長

このほかに質問はあるか。

○委員

幼稚園が定員を減らす意図は何か

○事務局

座間市は公立の幼稚園がないので推測することしかできないが、幼稚園のニーズは無くなっていないが、以前よりも希望する人が減っている。それは定員割れしている幼稚園があることが示しており、少子高齢化や共働き世帯の増加の影響もあろうかと思う。

○会長

このほかに質問はあるか。

○委員

保育園と幼稚園にそれぞれの良さがあると思うが、市は認定こども園を作らないのか

○事務局

可能性は探っていくが、財政的な負担も増えるため、需要と供給のバランスを考えていきたい。

○会長

このほかに質問はあるか。

○委員

どうやって、こどもの生活が社会のまんなか社会を実現するか

○事務局

保育園や幼稚園を利用していない子供やその保護者を孤立させないことが1番重要と考えている。
保健師などの専門士も含めてどのようにケアしていくか考えていく。

○会長

このほかに質問はあるか。

○委員

保育士は足りているのか。また、保育の質をどう担保するのか。保育士資格のない人を保育補助として雇ってはどうか。

○事務局

保育士の数は非常に厳しい。保育の質については保育士一人当たりの定員数を減らす動きが国にあり、市としても保育の質を担保したい。保育補助については検討の材料として受け止めさせていただく。

○委員

現場の意見として、神奈川県保育士の賃金は、全国でトップレベルですが、保育士を目指す学生が減っており、保育士を志していても、途中で諦めてしまうことも増えている。

○会長

そのほかに意見、質問はあるか。

なければ、本日本日予定していた議事は終了とする。

4 「閉会」